

## 塘研究室現地調査報告

4月30日に裏磐梯にて現地調査を実施しました。調査参加者は4年生の佐藤椋一君と塘の2名で、この日の裏磐梯はかなり肌寒かったですが、卒業研究で陸生昆虫相調査を実施する佐藤君の蝶類のセンサス調査ルートと地表徘徊性甲虫類の調査のためのピットフォールトラップ設置場所の選定と、活動を開始した春の昆虫の写真撮影を行いました。

株式会社ニチレイ社有地内にある3つの池は融雪水のために水量が多く、2の池の周囲のヨシ湿地は水深20cmほどの水たまりになっていましたが、残雪はありませんでした。双翅類（ハエ・アブの仲間）は比較的多かったですが、他の陸生昆虫類は何も見かけられず、蝶類は越冬タテハ類やシロチョウ類も含めて何も目撃できませんでした。中瀬沼自然探勝路、レンゲ沼自然探勝路ではオナシカワゲラ類が飛び回り、ウバユリの葉上にカタクリハムシが見られました。佐藤君がルリシジミを1個体目撃したようです。水たまりにはクロサンショウウオの卵囊が多数見られました。湿地にはミズバショウが咲いており、ヤマザクラはまだ十分に花が残っていました。1ヶ月近く季節が進むのが早い今年の福島にあって、裏磐梯はまだ春が楽しめる状態でした。林縁部にはキビタキが多く、特に母沼では複数個体が見られました。五色沼自然探勝路と裏磐梯スキー場までの林道でも陸生昆虫はほとんど見られなかったようです。裏磐梯スキー場付近の林内にはまだ残雪があり、融雪水が小流となって池に向かって流れ込んでいました。池（ではない場所かもしれませんが）にはサハリントビケラの幼虫が多数みられました。



カタクリハムシ（中瀬沼自然探勝路）



オナシカワゲラ属（中瀬沼自然探勝路）



クロサンショウウオ卵囊（中瀬沼自然探勝路）



キビタキ（五色沼自然探勝路・母沼）



ヤマザクラ（中瀬沼自然探勝路）



ビロードツリアブ（株式会社ニチレイ社有地）